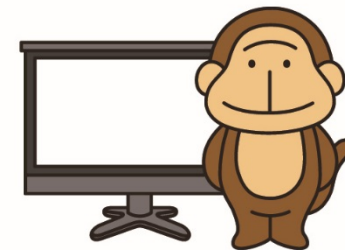


発災直後の状況

本社および送信所設備

地震による本社社屋・設備およびテレビ・ラジオ送信所設備への被害は無く、
予備電源(発電機およびバッテリー)により放送を継続
(HBC本社は、9月6日3時25分から9月7日5時15分まで停電)



出勤状況

自主的に出社
(タクシー、自転車、徒歩)



災害報道開始

テレビ:地震発生約4分後に災害報道(JNNニュースバード)を開始

約12分後にHBCによる災害報道を開始

約22分後にL字による情報送出を開始

ラジオ:地震発生約14分後にHBCによる災害報道を開始

SNS:地震発生約10分後にHBC公式ツイッターによる災害情報を発信

Web:地震発生約63分後にHBCテレビ報道特別番組の同時配信を開始



停電時の災害報道番組放送継続の取組

人

人、番組、設備 すべてがそろってはじめて災害報道番組の放送を継続することができる
HBCのスタッフや家族に大きなけがなどは無かったため、多くのスタッフの出社が可能だった
社内では部署を超えて協力し、また系列各社から多数のスタッフの応援を受けた

番組

被災した方にとって何が必要な情報なのか、減災に少しでも貢献できるように意識して番組制作を行った(HBCの番組に限らずに「情報入手の手段」を呼びかけた)

出来るだけ多くのメディアで情報を発信することが重要と考え、テレビとラジオに加えて、SNSやインターネットで災害情報を発信した

設備

予備電源により放送継続を行った
予備電源がバッテリーの送信所において、
バッテリー枯渇後の電源喪失を防ぐため、
ポータブル発電機を使用し現地作業で電源供給を行った
常設発電機・ポータブル発電機ともに必要に応じて燃料の給油を実施した



ポータブル発電機による電源供給

燃料調達・確保に関する取組

契約燃料供給事業者の対応

複数の燃料供給事業者と災害時の燃料供給に関して覚書もしくは協定書を結んでいた
その中のひとつの燃料供給事業者から札幌のガソリンスタンドで燃料の供給を受けることができた
しかし、停電で燃料供給ができないスタンド、連絡がつかない事業者があった(対策実施済み)

送信設備の状況

本社および親局送信所では、10日分程度の燃料の備蓄があった
札幌以外で燃料が必要な場合は、一般の方と同様にガソリンスタンドの列に並び燃料を確保した

番組制作現場の状況

報道車両は、主に札幌のガソリンスタンドで給油し現場に移動した

その他

系列局から燃料輸送の打診があった(停電が長期化した場合は応援依頼をしていたかもしれない)
今回の地震では自力での燃料確保が可能だったが、民間レベルでの燃料確保が難しいときには、
公の機関に相談する必要がある

